

Donate For Everyone 企画書

仙台育英学園高等学校 秀光コース

清水 陵雅

1.はじめに

私は2019年7月にカナダで約2週間のGlobal Leadership Programに参加した。ここでは、都市で大勢の人が買い物や食事を楽しんでいる一方、大量のホームレスが街中において、中にはホームレスが使用する毛布を踏んでいる人もいた。日本の生活からは想像することができない光景を目にしたことで、世界各地で起こっている問題について関心を持つようになった。それからは今この世界は私の知らない課題を多く抱えていることを実感して調査するようになり、あまり報道されていないような数多くの課題が存在することに気づいた。これらの課題を解決する方法として寄付が有効だと感じ、「Donate For Everyone」ホームページの製作を決意した。日本は他国に比べて寄付のGDP比率がかなり低くなっている(表1)ことから、日本において寄付をするという文化を広げるためにも、この取り組みは有効であると考えた。

表1 各国における寄付のGDP比率

国名	寄付のGDP比率
アメリカ	1.44%
イギリス	0.54%
韓国	0.50%
日本	0.14%

2.目的および概要

世界各地で起こっている諸問題について詳しく知り、関心を持った問題に対して寄付を通して支援することができるWebサービスを作成することを目的とする。そのWebサイトを通じて、「報道されていないような世界が抱えている課題について理解を深めてもらうこと」「ひとりの力では直接その問題の解決に貢献することができなくても、ひとりひとりの力が集結することで世界を変えることができる」ということを伝えたい。また、世界各地でどのような問題が起こっているかを一目で分かるよう世界地図上に問題を表示するなど、ただ情報を羅列したサイトにはならないようにする。寄付については、「本当に寄付したお金は正しい使い方をされるのか」という疑問を抱かれることの無いよう、領収書を提示してお金の行方を明確に示して信頼度の高い募金サイトとなることも目指す。サイトの公開時には独自ドメインを取得し、信頼性をあげるとともに、Google等の検索エンジンにもサイトが表示されるようにする。

3.プロジェクトのスケジュール

(1)プロジェクトの進行過程の計画

今回のプロジェクトでは表2の通り計画を立てた。

表2 プロジェクトの進行計画

日程	アプローチ	概要
2020年 6月1日 ～6月20日	世界で起こっている問題についての調査	世界各地で起こっている問題について、情報リテラシースキルを活用して正確かつ効率よく調査する。また、調査する際には参考できる情報源のみを活用し、幅広い視野を持つためにも日本語の情報源に限らず、外国語の情報源も活用する。
6月22日 ～6月30日	寄付先の調査	それぞれ調べた問題について、どの団体に寄付することができるのか、その寄付先は信用することができるのかについて調査する。 また、寄付する際の手数料についても調べておく。
7月1日 ～8月6日	サイトの作成および推敲 FEEDBACKアンケートの作成	これまでに調査した世界で起こっている問題についての内容、寄付先の信頼度をもとにサイトの作成を行う。見やすいサイトを心掛け、作成が終わったら正しい文章表現であるかを確認する。また、サイトの問題点を見出し、改善するためのFEEDBACKアンケートの作成も行う。 アンケートの作成に関しては、回答時間が長くなりすぎないように注意する。
8月7日	サイトの公開	作成したサイトをClassi※を利用して学園内で公開する。同時にSNSアカウント等の利用と、チラシの配布による宣伝も行う。
8月8日～ 8月31日	FEEDBACKの分析および振り返り	FEEDBACKが待ち集まり次第、統計や分析を行い、改善策を考えて実施する。点数をつけてもらう設問に関しては平均点を求め、コメントをいただく設問に関しては表にまとめて振り返りを行う。 自分で定めた評価基準が達成できたかどうかの確認も行う。

※Classi…クラスなどのグループで情報発信等ができるICTツール

(2)計画の実行および変更

以下の表 3 のように計画を実行、または計画を変更して実施した。

表 3 進行計画の実行および変更

6月1日 ～7月20日	計画通りに世界で起こっている問題についての調査を開始した。しかし、インターネット以外の情報源から情報を得ることや、外国語の情報源を使用することに苦戦した。そのため、予定よりも1カ月近く長引いてしまった。また、世界で起こっている問題についての調査に加えて、寄付先の調査も予定を変更して同時並行で行うことにした。
6月3日	調査している情報に関して先生方からのアドバイスを受けた。ツールはWordPressを使用してウェブサイトを作成しようと決めた。
6月6日 ～6月13日	ウェブサイトを作る知識を得るためにHTMLに関する本を購入し、その内容を踏まえて、WordPressでのウェブサイトの作成は私にとってかなり難易度が高いことが発覚した。そこで、Wix.comを使用してウェブサイトの作成に取り組むことに決めた。
6月21日	太白図書館に行き、「今、世界で本当に起こっていること—現代でもっとも刺激的な環境問題」を使用して世界で起こっている問題について調査した。
7月1日	今日からウェブサイトの作成を始める予定だったが、調査が十分でないことに加え課題や考査のことを考慮し、予定を一カ月遅らせて下記休業中にサイトの作成に取り組むことに予定を変更した。
7月30日	今回作成するウェブサイトは全世界に公開するウェブサイトであるため、独自ドメインを獲得すること、SEOを設定して検索エンジンにかかるようにすることが大切だと考えていた。そのため、それらの条件を満たすことができるWix.comのプレミアムプランを契約した。
8月1日	サイトの作成を開始した。「donate-for-everyone.org」という独自ドメインを取得し、接続も確認した。
8月2日	寄付を募る方法としてクレジットカードや銀行振込が良いと考えていたが、個人のサイトでは審査に通らず難しかったため、比較的簡単に個人でも資金の移動ができるPayPalを、寄付を募る方法として決めた。
8月15日	サイトのメニューバーを画面上部に表示しようとしていたが、そのままでは端末によって見づらいため可能性が低いため、ボタンを押すとメニューバーが表示される仕組みに変更した。
8月24日	成果物の振り返りの参考資料として使用するFEEDBACKアンケートをMicrosoft Formsにて作成した。

8月26日	サイトの進捗状況が8割程度となり完成が見えてきたため、校内の人に共有してもらうための Classi への投稿に関する打ち合わせを ICT 担当の先生と行った。
8月27日	検索エンジンにかかるようにする SEO の設定を行った。 Google に認められ、Google インデックスへの登録が完了した。
8月31日	内容量がかなり多かったり、思うようにいかない部分があったりと予定よりもかなり遅れてしまったが、ウェブサイトが完成した。 完成したウェブサイトの不備や不具合がないかどうかを確認し、大きな不具合は確認されなかった。予定よりもかなり完成が遅れてしまったため、FEEDBACK アンケートの回答時間を十分に取れない分、宣伝を積極的に行う必要があると感じた。
9月1日	まずはクラスメイトに作成したウェブサイトを開示するため、クラスの Discord にウェブサイトを共有した。
9月1日 ～9月9日	集まったアンケートを集計・分析した。
9月5日	Classi を利用した学園内への公開審査に予想以上に時間がかかっていることもあり、秀光中等教育学校の生徒からアンケートをもらうために Twitter と Instagram にてウェブサイトを共有した。
9月6日	秀光中等教育学校の中学一年生から秀光コースの高校二年生に、サイトを広告するチラシを配布した。
9月7日	ICT 担当の先生と打ち合わせを行い、Classi での公開にさらに時間がかかるという連絡を受け、先生方に Teams を用いたサイトの公開をお願いし、公開した。 寄付額や FEEDBACK の数が足りていない状況であったため、一人ひとりの先生方に協力を直接お願いした。
9月9日	FEEDBACK アンケートに寄せられた不具合や誤字の報告をもとに、それらの改善・修正を行った。
9月12日	Donate For Everyone に寄せられた寄付のうち、数が多かったインドネシア地震に対して、Yahoo!基金を通して「peace winds」に寄付した。
9月16日	Classi を利用した学園内への公開審査が完了し、仙台育英学園高等学校・秀光中等教育学校に向けて Classi 上での公開を行った。

4.実績および今後の計画

Donate For Everyone(URL: donate-for-everyone.org)を公開して SNS や学園内での宣伝を行った結果、表 4 のような実績を得られた。(集計期間：2020 年 8 月 31 日～2020 年 9 月 25 日)



Donate For Everyone
QR コード

表 4 Donate For Everyone の閲覧数および寄付金額の実績

項目	目標	実績	目標との差
ページを見たユーザー数	500	244	-256
ページビュー数	5,000	1,422	-3,578
集まったアンケート数	50	45	-5
集まった寄付額(円)	50,000	9,100	-40,900

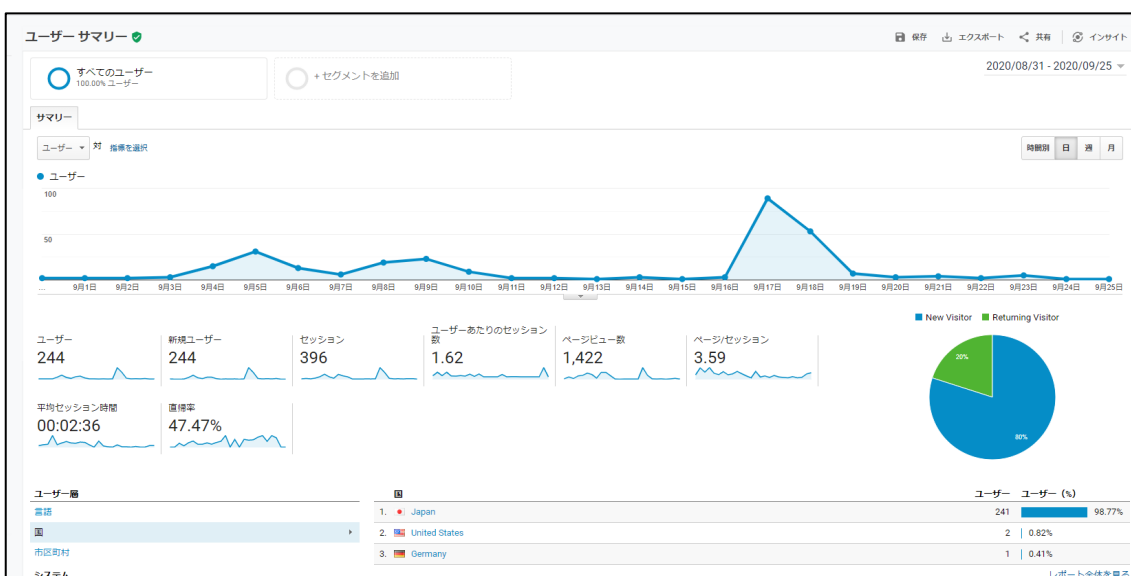


図 1 Donate For Everyone のユーザーサマリー (Google アナリティクスから)

集まったアンケートの中には「少ない寄付でも苦しい環境にある人々を助ける取り組みは素晴らしい」という意見や「予想以上に世界にはたくさん問題があることを実感し、それに対して改めて考え直す機会となった」といった私が設定した目的を達成できたと感じられる意見もあった。また、校内向けの宣伝が主であったため、学生はクレジットカードを所有できず、銀行口座も持っている人が少ないことから、多額の寄付を集めることは厳しいと予想していたが、「両親に相談し、寄付しようと考えている」という意見も寄せられ、世界が抱えている問題の現状とその深刻さについて伝えることができたと考えられる。

ただ、Donate For Everyone に取り組むと決めた当初の目標は、ページビュー数が 5000、寄付額は 50,000 円であったため、現状の数字には満足せず、今後も集まった FEEDBACK アンケートをもとに改善を加えてより良いサイトとしていきたい。また、

ページを見たユーザーのなかには日本だけではなく、アメリカやドイツからのアクセスもあったため、日本語のサイトに加えて英語のサイトも追加し、日本人以外の人からもアクセスして頂き、内容を理解してもらえるようにしていきたい。